

広報は、中学校生徒会に委託して各家庭に配布しています。（発行予定日毎月20日）広報への意見や話題などをお知らせください。

'84/5月
313号

わたしたちの町

人 口(男)……4,538人
(女)……4,881人
計……9,419人
4月中の転入……43人
転出……55人
世 帯 数…2,312世帯
(4月末日住民登録人口調べ)

広報

あいかわ

昭和59年5月24日 第313号 秋田県合川町 編集 総務課 電話 018678-2111

文政年間スギを視察



山々を緑豊かに 大木になる日夢見て

町植樹祭は五月七日、羽根山沢国有林（松前沢）で行われました。植樹祭には町、営林署、森林組合の関係者と部落や各団体の代表などが参加。営農大学校の中国研修三期生の十名もくわを振りました。町長は「緑ゆたかな山々を取り戻すために、遠い将来を見つめてみんなで努力しよう」とあります。一人二本ずつの町内産スキ苗木をいねいに植え付けました。一行は文政年間のスギ造林地（春慶沢）を視察。一八二三年の植え付けと記録に残る造林地で採取標本を見ながら、「私たちが植えたスギも、やがてこのようになる」と、その日を夢見ていました。そして「文政年間スギ、天然スギと白津山一帯の自然を守り育てよう」と誓い。绿化推進、山火事予防などを話し合いました。
(写真=中国研修生と記念植樹)

合川町植樹祭

県立精神病院・道路を要望
佐々木知事 町を訪問

II 行政懇談会 II

佐々木喜久治県知事を聞む行政懇談会は十六日、役場会議室で開かれました。佐々木知事は懇談会に先立つて県立農大校と大野台工業団地を訪問。視察と激励を行いました。

工業団地では建設のすすむ説明に耳を傾けていました。

各工場をまわり説明に耳を傾けていました。

各工場の大規模な工事現場を視察。各工場をまわり説明に耳を傾けていました。

各工場をまわり説明に耳を傾けていました。



土濃塚一郎助役

工業団地の操業四社を訪問。工事現場を視察する佐々木知事。



米内沢病院など一般病院とは機能が違い、競合しない。
○大野台に種苗会社誘致、大学に指標場の設置するなど農業振興策を考えています。
○大野台工業団地は県北部の中核工業団地と位置付けられており、平行して農業開発調査も進めている。開発計画の中で検討するが、当面は二八五号線整備が第一と考えている。

知事は▽県の発展計画により諸施策が実行されている。▽人口減少傾向、特に出生率の減少が続いている大きな課題。▽景気回復、過疎対策に全力を尽くす」と報告し、町と県が一体になつて行政を進めないと強調しました。

町側からの要望質問と答弁は次のとおりです。

○大野台開発をすすめるため横断道路を新設してほしい。
○鷹角線の存続開通を確約してほしい。

知事は▽県議会はじめ、全県的な合意が必要で、まもなく結論をまとめる。

助役土濃塚氏を再任

臨時町議会

知事=現在、専門機関で検討中で二年後ぐらいに結論が出る。

○県立精神病院の当町建設を実現してほしい。

○大野台開発をすすめるため横断道路を新設してほしい。

○鷹角線の存続開通を確約してほしい。

○大野台に種苗会社誘致、大学に指標場の設置するなど農業振興策を考えています。

○大野台工業団地は県北部の中核工業団地と位置付けられており、平行して農業開発調査も進めている。開発計画の中で検討するが、当面は二八五号線整備が第一と考えている。

知事は▽県の発展計画により諸施策が実行されている。▽人口減少傾向、特に出生率の減少が続いている大きな課題。▽景気回復、過疎対策に全力を尽くす」と報告し、町と県が一体になつて行政を進めないと強調しました。

助役土濃塚氏を再任

知事は▽県議会はじめ、全県的な合意が必要で、まもなく結論をまとめる。

町長日記から

今年の合川中学校の体育の活躍が目立ってきた。普段の練習の積み重ねが、あきらかにものと言っている感じだ。苦しいクラブ活動を、父兄や町の人々は暖かく見守ってやるべきである。やがて自らを鍛え抜いた子どもたちが大人になつた時代に目を向けて、その基盤をしつかりとつくり上げて行かねばと心に

五月三日で任期満了となる助役に、土濃塚一郎助役（五十八才）が再任することになりました。

〔助役の専任〕
五月三日で任期満了となる助役に、土濃塚一郎助役（五十八才）が再任することになりました。

巣づくり



大野台エコハイツの入居者、齊藤正作さんが見つけたのが、窓ぎわに育てている盆栽の間に、セキレイが巣をつくっています。齊藤さんが見つけたのは四月下旬で、たまごが五個。親鳥は雛をかえず、わざなくちばしがほほえまし姿を見せてくれています。「朝五羽の雛がかえり、えさを運ぶ親鳥と、それをついばむ小さな目を見守りたい」というエコハイツの皆さんのが声が聞こえるかのように、親鳥は小さな目を光らせていました。

十九日朝五羽の雛がかえり、えさを運ぶ親鳥と、それをついばむ小さな目を光らせていました。

大野台エコハイツの入居者、齊藤正作さんが見つけたのが、窓ぎわに育てている盆栽の間に、セキレイが巣をつくっています。齊藤さんが見つけたのは四月下旬で、たまごが五個。親鳥は雛をかえず、わざなくちばしがほほえまし姿を見せてくれています。「朝五羽の雛がかえり、えさを運ぶ親鳥と、それをついばむ小さな目を光らせていました。



わが家の わたしの 宝もの^②

根田薬の製造工具 古文書に残る秘伝

西根田 金田 京子さん

「代々、家の長男だけが、見ることを許されていました。麻の葉、熊の骨、鹿の角、ムササビ、イタチ、人じん、夕顔など12種類から作る製造法と用法が書き残されています。根田薬は数百年の歴史があるとされています。「150年ほど前から売った記録があり、それから、さらに300年ほど前に製法をさずかたとされています。」

カツバがつかまり、命ごいに万病にきく薬の製法を残した…これが根田薬のはじまりとその時のありさまが書き残されています。「明治に入って法律ができるまで、内務省、郡役所、税務署などの免許証のようなものがたくさんあります。私が嫁いだ時は『認可』の看板がかけられました。能代山本のほうまで広く売り子がいたのです。せんき、打ち身、切りきず、目まいなど幅広く機能が知られています。「おじいさんが麻の葉を焼いて、火事になるのではないかと心配するほど燃えたのを覚えています。その灰から薬にしていたようで昭和30年頃まで造っていました。今でも『根田薬が残っていませんが』と求められることがあります。金田家では、夕顔を植えてはいけない。という家訓が今も守られています。「どういうわけかわかりませんが薬と関係あるのでしょうか。近所の人たちも覚えていて、毎年、いっぱい分けてもらっています。正月はカツバの掛け軸で祝うという金田家と地域の人たちに『根田薬』への愛着はまだ強く残っているようです。

善意のご寄付
〔敬称略〕

佐藤久芳 木戸石（故母子ヨ）
佐藤久芳 木戸石（故母子ヨ）

〔敬称略〕

慶弔だより
4月届

総合福祉施設「大野台の里」に
五百九十万円
贈付金三百三十万円が贈られました。大野台の里への善意の配分は四回目。あわせて二千九百九十万円になります。これらの善意は施設の拡充のための重要な財源になつておなります。厚生園は「自立」の一環として、自分の衣類は自分で洗う。ことにしており、今回の寄付はそうした活動の手助けになればと寄せられたもので、たいへん喜ばれています。

〔香典返しにかえて〕

〔敬称略〕

近藤政之助

本人

木戸石

（故母子ヨ）

佐藤久芳

木戸石

（故母子ヨ）

佐藤久芳